

編集 後記

酷暑の続いた夏もようやく峠を越し、この号がお手元に届くころには、少しずつ過ごしやすさが戻ってきていることを願います。

暑い夏を嘆くだけではなく、気候変動に対応した当面の取り組みと、その先を見据えた長期的な対応の双方を同時に進めていく必要性を改めて痛感しています。

さて、第72巻9号では、論壇、原著、2報の資料、特別報告から成る計5編を掲載いたしました。

第1篇は、日本における全粒穀物、とくに玄米の摂取状況と課題を、公衆衛生的および医療経済学的観点から考察した論壇です。玄米摂取の健康効果と普及の障壁を整理し、社会保障費抑制への寄与可能性を検討しています。

第2編は、公共交通としての電動カート運行停止と高齢者の要支援・要介護リスクとの関連を3時点比較で追跡した原著論文です。とくに週1回以上の利用者で運行停止後にリスクが有意に上昇することが示され、地域高齢者の介護予防の観点から持続的な運行の意義が示されています。

第3篇は、統括保健師を対象とした全国調査に基づき、保健師活動におけるICT活用の実態と課題を明らかにした資料です。積極的な推進姿勢が見られる一方、実際の進捗は十分ではなく、人材育成や自治体間のノウハウ共有の必要性が示唆されています。

第4編は、中高年住民の心身機能の加齢変化を横断的に検討した資料です。聴力や視覚、情報処理能力、筋持久力に顕著な年齢差がみられる一方、歩調や精神的健康度では年齢による大きな差異はなく、労働衛生対策に資する知見が提示されています。

第5編は、公衆衛生看護のあり方に関する委員会活動報告であり、保健師のコアバリューとコアコンピテンシーを整理・共有した特別報告です。教育と実践の共通指針としての位置づけが示され、今後の普及と活用が期待されています。

高齢化や社会の変化が加速するなか、公衆衛生の領域でも、現場の課題に即応する柔軟さと、将来を見据えた持続的な視点の双方がますます求められているように感じます。今回のように公共交通や労働に関連したテーマでの報告を踏まえると、介護予防や心身機能の変化への対応は、中高年世代にとどまらず、あらゆる世代の健康づくりにも通じる普遍的な施策として展開していくことも重要であるかもしれません。

最後になりますが、本誌では引き続き、公衆衛生の幅広い領域に関する多様な原稿を掲載してまいります。会員の皆様の積極的なご投稿を、心よりお待ちしております。(目時弘仁)

次号予告 (第72巻・第10号)

原著

前・後期高齢者別の多剤服用と要支援・要介護認定の発生：JAGES2013-2019縦断研究

……………笠原正幸, 他

へき地住民のオンライン診療・服薬指導に対する利用意向

……………古城隆雄, 他

国保データベース (KDB) システムを利用した中高年向けの運動教室の効果評価

……………丹野祐美, 他

公衆衛生活動報告

GISによる難病患者の位置情報把握と災害時支援への活用：NHAMs (ニャムズ) の作成

……………星 翼, 他

産官学民連携で取り組む四街道市における健康まちづくり：コレクティブ・インパクトのコンセプトに沿って整理した初年度の成果と課題

……………井手一茂, 他

特別報告

自殺対策基本法制定20周年を振り返る：自殺実態の把握

……………野村恭子, 他